景観計画における色彩基準の運用実態

—アクセントカラーと裁量型基準に着目して—

COLOR STANDARD IN OFFICIAL LANDSCAPE PLAN

— Focussing on accent color and discretionary standard —

堂本友里江 — * 1 岡崎篤行 — * 2
松井大輔 — * 3

キーワード：
景観計画, 色彩, 基準, マンセル表色系

Keywords:
Landscape plan, Color, Standard, Munsell color system

Yurie DOUMOTO — * 1 Atsuyuki OKAZAKI — * 2
Daisuke MATSUI — * 3

The Landscape Act was established and improvement orders could be given on color and design. Local governments now need to establish objective and distinct standard. But the discretionary standard such as “the harmony with the neighborhood” as well as the quantitative standard are used in official landscape plan. Besides, accent color as well as base color is prescribed. So this paper deals with the color standard of buildings. How to set numerical value of the quantitative standard of base colors and area of accent color is clarified. In addition, how to judge conformity on discretionary standard is also elucidated.

1. 研究の背景と目的

近年、建築材料の多様化に伴い色に対する個人の趣向が建築物に反映されやすくなり、様々な色彩の塗料が住宅や商業施設などの建築物に使用されるようになった¹⁾。これにより、街並みの調和を乱す色彩の建築物が各地で建築され、場合によっては景観紛争に至ることもある。かつては景観に関する多くの自主条例が地方公共団体により運用されていたが、自主条例は法的根拠を持たないことから規制において強制力がない事などが課題として挙げられ、景観に関する基本的な法制度の制定が求められていた。こうした背景の下、良好な景観の形成を推進することを目的として 2004 年に景観法が制定され、新たに法的根拠を有する規制である景観計画を各地方公共団体が施行できるようになった。これにより、地方公共団体は新築や改築等の建築行為に対して色やデザインに変更命令が出せるようになるなどの利点を得た。変更命令という規制の強い行為を行うためには、地方公共団体はできる限り客観的かつ明示的な基準内容を設定しなければいけない状況にあると考えられる。国土交通省による景観法の施行状況では、2013 年 9 月 30 日現在で景観計画は 399 団体が策定しており、景観行政団体は 598 団体存在する²⁾。また策定数は年々増加傾向にあり、景観計画は景観行政団体が策定することからも、今後、増えていく事が予想される(図 1)。各地方公共団体が定める景観計画における色彩基準の現状としては、マンセル表色系を使用する等で客観性、明示性を意識した基準だけでなく、具体的な数値設定をせずに周辺との調和を促すような裁量的な基準が運用されている場合もある。しかし、これらの設定方法や運用については不明確である。そこで本研究は、今後景観計画を見直し又は策定する地方公共団体への一助とするための体系的な技術報告として、景観計画における建築物の色彩基準に着目し、(1) 定量型基準に

おける数値の設定方法と(2)裁量型基準における適否の判断方法について明らかにする。さらに、アクセントカラー^{注1)}は使用する色彩や面積によっては見え方が変化し、使用方法が周囲との調和方法に工夫が求められる点で重要であると考えられるため、(3)使用面積の割合とその設定根拠について実態を明らかにすることを目的とする。

図 1 景観行政団体と景観計画の推移

2. 研究の位置づけ

景観法における景観計画の色彩規制に関する研究として、色彩規制の項目について細分化し形態をまとめた研究³⁾や設定内容において規定方法と地域特性の枠組みについての実態を明らかにした研究⁴⁾はあるが、数値の設定方法や判断方法については明らかにされていない。また、景観計画を策定している地方公共団体の一つを対象として実際に外観測定を行い実態を調査した事例研究⁵⁾や色彩基準において揭示方法と場所設定との関係性に焦点を当てた研究⁶⁾はある。前著書⁷⁾では、色彩基準における設定値の全体像を把握し基

¹⁾ 新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程
(〒 950-2181 新潟市西区五十嵐二の町 8050)

²⁾ 新潟大学工学部建設学科 教授・博士 (工学)

³⁾ 新潟大学工学部建設学科 助教・博士 (工学)

¹⁾ Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.

²⁾ Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

³⁾ Assist. Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

準を分類した上で、彩度や明度の実態を明らかにした。本研究は前著書の基準の分類に加え、現行の規制による判断基準や裁量的基準における適否の審査方法など、制限値の運用実態を明らかにする点に特徴がある。

3. 研究の方法

本研究は国土交通省の2013年9月30日時点での景観法施行状況²⁾により景観計画を策定している地方公共団体399団体の中から全景観計画の規制内容を把握し、色彩基準の有無を確認する。その結果から、色彩基準を設けている地方公共団体396団体を抽出した。その後、この396団体を対象に色彩基準における適否の判断基準の実態やアクセントカラーの割合の実態についてアンケート調査（回収率81%）及びヒアリングを行った。なお、同一自治体で複数の基準がある場合は、分けて考える。以上の調査を通して、全国の色彩基準がどのような方法で設定されたか明らかにする。

4. 景観計画に関する色彩基準の概要

4.1 色彩規制の対象

景観計画において色彩を届出対象行為として設定している地方公共団体が多い。また、景観形成基準の中に色彩の項目を設けている地方公共団体は9割以上となる。これより、良好な景観形成において色彩基準を設けることが重要であると認識されていることは明白である。色彩基準の対象に関しては、建築物全体を対象としている場合のほか、屋根と外壁のみに限定している場合もある。また、工

作物にも色彩基準を設けている地方公共団体もあるが、本研究は、景観紛争に繋がった事例も多く、また周囲の景観形成にも大きな影響を与えると考えられる建築物のみを対象とし、工作物と屋外広告物については研究対象からは除くこととする。

一方で、景観計画を策定する約1割に該当する景観形成基準に色彩項目を設けていない景観計画は、「木林の植栽又は伐採」等が届出対象行為となっているため、そもそも建築物を景観規制の対象としていない。ただし、愛知県岡崎市では、景観形成基準に色彩に関わる項目がないものの、重点地区においてのみ運用指針で色彩について触れている。

4.2 ベースカラー^{注2)}に関わる基準の概要

景観計画における色彩の景観形成基準は定量型と裁量型に大きく2つに分けられる。定量型は主にマンセル表色系を使用し、色相・彩度・明度の三属性の範囲や値を記載している基準である。これは全396団体の内267の団体で運用されている(表1)。これらの基準は、三属性の組み合わせ方で、さらに以下の5つのパターンに分類できる。三属性すべてを使用しているタイプI-iは全体の約5割にあたる181団体が該当し、定量型の中では一番多いタイプである。次いで、色相と彩度を使用しているタイプI-iiは65団体である。また、明度と彩度を使用したタイプI-iiiが11団体、彩度のみのタイプI-ivが9団体、色相のみのタイプI-vが1団体という結果になった。より客観的かつ明示的な基準にするために、三属性を使用して具体的に色彩の範囲を決定できるタイプI-iが多く使用されていると推測できる。

表1 色彩基準のタイプ分け

色彩基準のタイプ分け	策定数 [件]	割合 [%] [※]		備考(例)	タイプ	地方公共団体名
		a	b			
景観計画	399	100	—	—	—	—
色彩基準有	396	99.2	—	—	—	—
定量型基準	267	66.9	100	マンセル表色系使用	I	—
色相・明度・彩度	181	45.4	67.8	R・YR・Yは明度6以下、彩度4以下	I-i	札幌市、小樽市、長沼町、黒松内町、釧路市、岩手県、平泉町、釜石市、奥州市、一戸町、水戸市、つくば市、守谷市、土浦市、石岡市、宇都宮市、小山市、高崎市、富岡市、太田市、板倉町、川場村、甘楽町、藤岡市、埼玉県、八潮市、草加市、秩父市、戸田市、熊谷市、和光市、新座市、三郷市、所沢市、志木市、春日部市、越谷市、柏市、市川市、我孫子市、流山市、浦安市、松戸市、茂原市、東京都、世田谷区、府中市、江東区、足立区、港区、墨田区、町田市、目黒区、杉並区、品川区、江戸川区、板橋区、練馬区、八王子市、台東区、荒川区、大田区、渋谷区、立川市、三鷹市、川崎市、横浜市の相模原市、大磯町、小田原市、養父市、鎌倉市、逗子市、藤沢市、茅ヶ崎市、大和市、海老名市、湯河原町、厚木市、南足柄市、綾瀬市、北杜市、茅野市、安曇野市、上田市、下諏訪市、新潟市、新発田市、上越市、佐渡市、七尾市、小松市、白山市、富山市、多治見市、中津川市、美濃加茂市、可児市、都立市、野間市、浜松市、熱海市、三島市、富士宮市、掛川市、沼津市、裾野市、松原市、桑名市、亀山市、志摩市、浜富県、彦根市、守山市、長浜市、栗東市、東近江市、草津市、野洲市、宇治市、長岡京市、福知山市、宮津市、大原市、堺市、高槻市、茨木市、茨城県、豊中市、吹田市、狭山市、岸和田市、藤井寺市、姫路市、西宮市、尼崎市、伊丹市、相山区、宝塚市、朝来市、奈良市、橿原市、斑鳩町、生駒市、桜井市、津和野町、岡山市、倉敷市、三次市、下関市、萩市、宇部市、周南市、高松市、大洲市、八幡浜市、今治市、高知市、福岡県、北九州市、福岡市、豊前市、八女市、太宰府市、うきは市、柳川市、大牟田市、佐賀市、平戸市、新上五島町、長崎市、熊本市、大分市、別府市、宇佐市、宮崎市、日向市、日之影町、那覇市、与那国町
色相・彩度	65	16.3	24.3	R・YR・Yは彩度4以下	I-ii	当別町、栗山町、八戸市、盛岡市、北上市、仙台市、横手市、白河市、牛久市、中之条町、下仁田町、さいたま市、川口市、千葉市、船橋市、市原市、横須賀市、座間市、平塚市、身延町、松本市、千曲市、諏訪市、佐久市、小諸市、須坂市、富山市、岐阜市、岐阜市、恵那市、美濃市、富士市、袋井市、伊東市、豊田市、大山市、半田市、みよし市、四日市市、鈴鹿市、福井市、鯖江市、京都市、三田市、豊岡市、鳥取県、倉吉市、鳥取市、米子市、出雲市、早稲町、丸亀市、松山市、久留米市、長崎県、小値賀町、佐世保市、由布市、中津市、杵築市、西部市、延岡市、椎葉村、鹿兒島市、出水市、霧島市
明度・彩度	11	2.8	4.1	明度2以上、彩度8以下	I-iii	旭川市、山中湖村、大垣市、日南市、蒲添市、脱谷村、うるま市、本部町、名護市、今帰仁村、久米島町
彩度のみの	9	2.2	3.4	彩度は10以下	I-iv	上富良野町、秋田市、足利市、四万十市、四万十町、中土佐町、津野町、五島市、石垣市
色相のみの	1	0.2	0.4	R・YR・Yは範囲を広げた色彩とする	I-v	三好市
裁量型基準	97	24.3	100	—	II	—
周辺調和型	73	18.3	75.3	周辺景観との調和を図る	II-i	北海道、函館市、清里町、釧路市、青森県、登米市、酒田市、大江市、長井市、喜多方市、日光市、那須塩原市、高根沢町、佐野市、前橋市、高山村、真鶴町、南アルプス市、甲府市、大月市、甲州市、長野県、飯田市、高山村、山ノ内町、高岡市、各務原市、下呂市、土岐市、下田市、湖西市、伊賀市、小浜市、大野市、永平寺町、坂井市、越前市、大津市、高島市、大坂市、泉佐野市、神戸市、高野町、大田市、奥出雲町、岡山市、真庭市、尾道市、呉市、福山市、防府市、山口市、下松市、岩国市、徳島市、土佐市、宇多津町、普通寺市、上島町、柳井町、唐津市、雄勝市、南島原市、山都町、茶臼町、宇城市、豊後高田市、臼杵市、薩摩川内市、宮古島市、宜野座村、南城市、伊平屋村
固有色名型	20	5	20.6	黒系、灰色、茶系に努める	II-ii	東川町、弘前市、那須町、箱根町、忍野村、小布施町、白川村、常滑市、三重県、近江八幡市、太子町、明日香村、高野町、瀬戸内市、甘日市市、柳井市、上勝町、宇和島市、武蔵市、島原市、
彩度明度型	4	1	4.1	低彩度、低明度に努める	II-iii	遠野市、山形県、綾町、渡名喜村
定量型・裁量型	32	8	100	—	III	一関市、米沢市、鶴岡市、福島県、伊勢崎市、新宿区、高崎市、富士河口湖町、長野市、駒ヶ根市、石川県、金沢市、輪島市、加賀市、名古屋、瀬戸市、伊勢市、勝山市、あわら市、甲賀市、京都府、和歌山県、和歌山市、松江市、内子町、伊予市、熊本市、山鹿市、天草市、日田市、都城市、竹富町
色彩基準無	3	0.8	—	—	—	平取町、栗山町、岡崎市

※a: 色彩基準全体に対する割合 b: 定量型基準、裁量型基準それぞれに対する値

一方で、裁量型とは具体的な制限値を用いず、届出に対して行政側の考えにより判断して、運用されるもので、97 団体で指定されている。裁量型基準は以下の 3 つに分類することができる。景観形成基準に「周辺の景観との調和を図る」等を記し、調和を重要としているタイプⅡ-i が 73 団体であった。また、黒や灰色、茶色等の一般色名や伝統的素材だけを明記しているタイプⅡ-ii は 20 団体であった。最後に、「低彩度、低明度に努める」等、具体的な値は示していないが、彩度や明度などマンセル表色系に関連する単語を用いているタイプⅡ-iii は 4 団体が該当する。その他に景観計画区域によって定量型基準と裁量型基準を使い分けて規制を行っている景観計画は 32 団体であった。これらの景観計画では、主に市街地や景観計画区域全域において定量型基準を使用し、伝統的な街並みが多く残る地域や農村部、主要な地域では裁量型基準が用いられている。

4.3 アクセントカラーに関わる基準の概要

アクセントカラーはベースカラーとの割合によって建築物全体に変化を生み出す事が出来る。しかし、アクセントカラー的使用方法によってはバランスがとれず、アクセントカラーだけが際立って見える可能性があるため、使用に際して注意が必要である。また、ベースカラーに対する使用面積や色の度合いなどが重要となる。景観計画における色彩基準の中では、238 団体でアクセントカラーに関わる規制が設けられており、使用面積の割合を明記している地方公共団体は 179 団体である（表 2）。その内、アクセントカラーの使用面積の割合を市街地や住宅地等、地域によって別々の値に設定している景観計画は 24 団体存在した。また、定量型基準を有する景観計画では、それぞれのタイプに 6 割程度、アクセントカラーの使用面積の割合を設けている団体が存在する。一方、割合を明記せずに規制を行っているのは 59 団体存在し、アクセントカラーによる規制を設けていないものは 158 団体存在した。また、「見付面積の 5 分の 1 以下」や「見付面積の 5%未満」というように分数やパーセントで表しているパターンがあり、さらに割合を記入していないところでは「アクセントカラーの使用は小面積に努める」、「周辺に配慮して使用する」などの抽象的な記述の規制が見られた。

5. ベースカラーに関する基準の運用実態

5.1 定量型基準の設定方法

マンセル表色系を使用している景観計画は 267 団体で全体の約 7 割となり、その殆どが制限値を例えば「R～YR は彩度 4 以下、明度 6 以下」等と範囲により示している。また、特徴的な基準としては、色彩基準を範囲で表すのではなく、色彩の一色一色を指定して景観計画に値を記載して、その中から色彩を選択するという草加市の方法がある。また、札幌市では、「札幌の景観色 70 色」という色の種類を定めており、それぞれの色についてマンセル値と共に、風土のイメージを連想しやすいように札幌市独自の色名を付けている。70 色の中から選択するのではなく、それに近似した色彩であれば良いので目安として景観計画に記載されている。

これらのマンセル表色系の数値を決定した過程として、地方公共団体にアンケート調査を行った（表 3）。全体 353 件中の約 4 割に該当する 128 件が、「外部に委託をして現地調査をしてもらった」と答えた。次いで、「他の景観計画を参考にした」という選択が 113 件で約 3 割であった。この 2 つの方法で約 7 割を占める。また、市町村

レベルでは都道府県を参考にしたという回答が多く、その他に近隣の景観計画を参考にしたという団体も多く存在した。「職員による現地調査を行った」という回答は 37 件であった。その他の回答としては現地調査を行なった後に、景観審議会や景観計画策定委員会等で検討し、決定したという団体や、既存の景観ガイドラインや条例を基に値を決定した団体、全戸にアンケート調査を行い色の値を検討し、決定した地方公共団体が存在した（表 4）。行政だけではなく有識者等の外部委託を行って、値を決定していく過程が多い事が分かった。

表 2 アクセントカラーの件数

ベースカラータイプ別		使用面積割合あり		使用面積 割合なし 規制あり	記載 なし	合 計
		1 つ	2 つ以上			
定量型基準 (タイプⅠ)	タイプⅠ-i	103	15	20	43	181
	タイプⅠ-ii	36	4	8	17	65
	タイプⅠ-iii	3	4	1	3	11
	タイプⅠ-iv	2	0	0	7	9
	タイプⅠ-v	0	0	0	1	1
裁量型基準 (タイプⅡ)	タイプⅡ-i	3	0	17	53	73
	タイプⅡ-ii	0	0	4	16	20
	タイプⅡ-iii	0	0	2	2	4
定量型+裁量型(タイプⅢ)		8	1	7	16	32
合計		155	24	59	158	396
		179				

表 3 定量型基準決定の過程

手法 タイプ		外部委託 による 現地調査	職員 による 現地調査	他の 景観計画 を参考	他 ※2	合計
色相・明度・彩度		79	19	71	47	216
色相・彩度		35	12	24	16	87
明度・彩度		2	0	5	3	10
彩度のみ		2	1	2	2	7
色相のみ		0	0	0	1	1
その他※1		10	5	11	6	32
合計		128	37	113	75	353
割合 [%]※3	a	36	11	32	21	—
	b	50	15	45	30	—

※1：筆者調査では景観形成基準に定量型基準が使用されていなかったが、アンケート調査では使用していると回答した地方公共団体※2：値における決定の過程に関する選択肢以外

※3：a アンケート回答数による割合 b アンケートで定量型基準を選択した 251 団体中の割合

表 4 定量型基準決定過程その他の内容

その他の内容		(件数)
法律・制度	既存のガイドライン(独自や県)・条例等	16
	地区制度から	1
	自然公園法	1
専門的	景観アドバイザー・専門家	14
	東京都との協議	1
方法	文献調査から	4
	ワークショップ	2
	地域特性を考慮して	6
	過去の届出・審査経験	3
	地域住民・市民で現地調査	3
	市民・町民の意見	4
審議会・委員会	景観審議会にて検討・決定	12
	景観策定委員会にて検討・協議・決定	12
	検討委員会等	7
	景観まちづくり会議	1
	景観協議会	1
その他	世界遺産登録への推進	1
	地域の参考色から	1
	全戸に対してアンケート	1
	一般的な通例	1
	景観上不調和となる色彩	1
明確根拠は不明		1
合計		94

5.2 裁量型基準の適否の判断方法

裁量型基準は全体の約 25%が使用をしている。数値だけでは基準を設ける事のできない、瓦や茅葺など自然素材の使用を誘導している歴史的な建造物や街並みが多く残る地域で使用をされていることが多い。裁量型基準には具体的な数値基準は設けられていないため、審査における適否の判断方法をアンケートにより調査した。「職員が周辺との調和を考えて判断している」と回答した団体は 40 団体であった(表 5, 6)。また「景観アドバイザーが周辺との調和を考えて判断している」団体は 10 団体であった。景観計画画には具体的に数値を記載していないが、内規で数値をある程度決めて判断をしている団体は 13 団体であった。この結果より、殆どの団体が内規等でも値を定めずに、周辺の状況等を考えて判断をしているという事が分かった。また、7 団体は 2 つ以上の回答があり、職員と景観アドバイザーが共に判断を行っている。その他の回答としては、景観ガイドラインの基準を基に判断を行っている団体や、景観部会や景観審議

会といった有識者も含まれる組織で意見を聞き、適否を判断しているという団体が存在した。これらの結果から、裁量型基準の判断基準は個々人の裁量の幅が大きく、判断する側に専門的な知識が必要となってくると考えられる。また、専門家の外部委託により進められている事が一般的である事が分かった。次に、数値等の具体的な判断基準がないため指導しにくいという事が予想できることから、実際に指導や勧告を行ったことがあるかということに関して質問を行った。その結果「指導を行った事がある」と回答した地方公共団体は 26 団体であり、届出の前の事前相談等で色彩の基準に適合するように指導を行っている。「勧告を行った事がある」のは 1 団体であり、色彩に関してではなく、主に屋根の形状による勧告が殆どであるとの回答を得た。「変更命令を出したことがある」と回答したのは 1 団体であったが、基準に沿わない色彩を何度か相談し、適合するような色彩に変更をしてもらったという事例であり、法定の変更命令とは異なったものであった(表 5)。今後マンセル表色系に「変更

表 5 地方公共団体別の裁量型基準における判断方法と運用実態

地方公共団体		※1 タイプ	※2 判断方法				※3 指導・勧告等					※4 変更予定			地方公共団体		※1 タイプ	※2 判断方法				※3 指導・勧告等					※4 変更予定				
			内	職	ア	他	指	勧	変	事	無	有	無	不				内	職	ア	他	指	勧	変	事	無	有	無	不		
北海道		調	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	滋賀県	近江八幡市	固	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	
	札幌市	3	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-	高島市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○		
	函館市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	京都府	太子町	調	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	
	東川町	固	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	大阪府	神戸市	調	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
青森県		調	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	兵庫県	神戸市	調	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○
	八戸市	2	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	和歌山県	和歌山市	調	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	
	弘前市	固	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	和歌山県	高野町	固	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	
岩手県	遠野市	彩	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	和歌山県	有田川町	調	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	
宮城県	登米市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	岡山県	瀬戸内市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	
山形県		彩	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-	岡山県	真庭市	調	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-
	米沢市	3	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	広島県	福山市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	
	酒田市	調	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	○	-	広島県	廿日市市	固	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-		
	大江町	調	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	○	-	山口県	防府市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	
	長井市	調	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	山口県	下松市	調	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	
福島県		3	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	徳島県	徳島市	調	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	
栃木県	那須町	固	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	徳島県	上勝町	固	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	
	佐野市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	○	香川県	土庄町	調	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-	
群馬県	高山村	調	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	○	香川県	宇多津町	調	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	
東京都	新宿区	3	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	○	-	愛媛県	善通寺市	調	-	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
富山県	高岡市	調	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	○	宇和島市		固	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
石川県		3	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	上島町		調	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	
福井県	小浜市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	内子町		3調	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
	坂井市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	佐賀県		武雄市	固	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	
	あわら市	調	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	-	○	長崎県	島原市	固	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	
山梨県	南アルプス市	調	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	-	○	熊本県	3調	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	
	忍野市	固	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○		山鹿市	3調	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○
	甲州市	調	○	-	○	-	-	-	-	-	○	○	-	-		苓北町	調	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	
	笛吹市	2	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	○		大分県	日田市	1固	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	
長野県		調	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	宮崎県	豊後高田市	調	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○		
	小布施町	固	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-		綾町	彩	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	
	飯田市	調	-	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-		○	鹿児島県	薩摩川内市	調	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	
岐阜県	美濃加茂市	3	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	大分県	豊後高田市	調	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○		
	下呂市	調	-	○	-	-	○	-	-	-	-	○	-		薩摩川内市	調	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○		
	白川村	固	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	○		徳島県	山鹿市	3調	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	
	土岐市	調	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	○			苓北町	調	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	
静岡県	下田市	調	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	○	大分県		日田市	1固	-	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○		
	湖西市	調	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	宮崎県		綾町	彩	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	
三重県		固	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	○	-	鹿児島県	薩摩川内市	調	○	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	-	

表6 判断方法と運用実態

判断方法	合計	指導等	合計	変更予定	合計
内規	13	指導	26	あり	3
職員	40	勧告	1	なし	40
アドバイザー	10	変更命令	1	不明	27
その他	17	事業者の公表	0		
		なし	43		

表 6 判断方法と運用実態

判断方法	合計	指導等	合計	変更予定	合計
内規	13	指導	26	あり	3
職員	40	勧告	1	なし	40
アドバイザー	10	変更命令	1	不明	27
その他	17	事業者の公表	0		
		なし	43		

凡例 ※1 表 1 におけるタイプ分け 調=周辺調和型 固=固有色彩型 彩=彩度明度型 1=彩度のみ 2=色相・彩度 3=色相・彩度・明度 ※2 内=内規である程度の値を設けている 職=職員による判断 ア=景観アドバイザーによる判断 他=その他 ※3 指=指導を行った 勧=勧告を行った 変=変更命令を行った 事=事業者の公表を行った 無=行った事ない ※4 有=ある 無=なし 不=不明

をする予定があるか」という質問に対しては「予定がある」と回答したのが3団体であった。その理由としては、施主や施工業者から可能範囲が不明瞭であるとの声があること、具体的な基準がないため行政側の裁量的な判断になってしまう事、重点地区等で規制を絞って運用していく必要があると判断していること等があげられる。「予定はない」との回答は40団体で、「わからない」との回答は27団体であった（表5）。

6. アクセントカラーに関する基準の運用実態

6.1 アクセントカラーの使用面積の割合

アクセントカラーの使用面積の割合がなく規制が明記されている基準では、彩度や色に関しての規制が設けられている色調型や、面積や色数等に関して周辺とのバランスを配慮するよう規制を設けているバランス型、ベースカラーの色彩基準を前提としてアクセントカラーの規制を設けている緩和型の3タイプに分けられた（表7）。その内、バランス型が最も多く41件、次いで色調型が19件、緩和型は4件という結果になった。バランス型が多いことから、隣接する建築物や周辺の環境等のバランスを踏まえた中で判断をしているという団体が多いと考えられる。

アクセントカラーの使用面積の割合は179団体で設定されていた。これは色彩基準を設けている団体の約半数にあたる。表記方法としては、パーセントと分数で表記されている場合があるが、使用面積の割合は全体で7種類存在した（表8）。その内、見付面積の20%（1/5）以内は一番多く設定されている値で、221件中107件であった。次いで10%の54件が多い。また、一番狭い範囲では5%（1/20）以内、広い範囲では33%（1/3）以内であった。全体の平均値は14.9%であった。特徴的な範囲の表し方は、小樽市の「基調色以外の色彩を使用する場合は、1箇所当たり3平方メートル以下、かつ合計10平方メートル以下とする。」と割合ではなく、面積を提示しているものがある。また、割合の値の設定数が7種類と少ないことや、5%毎の値の設定が多く、区切りのよい値が設定されている事からも、値に関しては一般的に広まっている制限値を使用している事が予想される。

6.2 アクセントカラーの規制方法

アクセントカラーの使用面積における回答が得られ、324団体中180団体が使用面積の割合を景観計画上に記載していると回答した^{注3)}。使用面積の割合はないがアクセントカラーについての規制はあると回答したのは40団体、規制自体設けていないと回答したのは104団体であった（図3）。また、規制自体設けていない団体では、10団体がアクセントカラーを禁止していると回答をした。その理由として、歴史的な建造物が多くあり、景観法以外の法や条例で風土を保存するという規制が独自で設けられており、意匠形態に関して「屋根は和型瓦、わら等その他これに類似する外観を有する材料とする」等と詳細に定められているため、アクセントカラーのような奇抜な色彩を用いる事ができないというものであった。また、その他にも、全面的に禁止をしているわけではないが、策定当時にアクセントカラー等を細かく設定しておらず、建築物全体に対してだけの規制を設けたため、アクセントカラーの使用を許可していないと回答した団体も存在した。その際は、現状の基準に適合するように行政側が指導を行い、色彩を変更してもらう形をとっている。また、

表7 アクセントカラーにおける割合なしの規制内容のタイプ分け

タイプ	主な内容	景観計画上の規制内容	件数
色調型	彩度や色	高彩度色を使用するときはアクセント程度に努める	19
バランス型	面積や色数	バランスに配慮することアクセント色を使用する場合は色彩相互の調和や使用する量のバランスに配慮すること	41
緩和型	色彩基準を前提	アクセントカラーとして慎重に用いる場合はこの限りではない	4

表8 アクセントカラーにおける使用面積の割合別件数

割合の種類	件数	件数における割合[%]	平均値
5%	39	17.6	14.9
6.7% (1/15)	1	0.45	
10%	54	24.4	
15%	9	4.1	
20%	107	48.4	
25%	9	4.1	
33% (1/3)	1	0.45	
1箇所当たり3平方メートル以下、かつ合計10平方メートル以下	1	0.5	
合計	221	—

図3 アクセントカラーにおける記載なしの件数と実態

禁止をしていない団体では、内規で値を設けているかどうかという質問に対して、内規で値があると回答したのが26件、無と回答したのが68件という結果になった。

6.3 アクセントカラーの使用面積割合の根拠

次に、使用面積の割合を設けている地方公共団体での値の根拠は、主体が行政のみの場合と行政と外部が関わっている場合、その他の場合の3つに分けられた（表9）。主体が行政のみの場合は、全体で129件あり、その内訳としては、他の景観計画を参考にしたという団体が78件で全体の約37%が行っている。調査は24件であり、内容としては、現地調査からの分析や割合比較のためのシミュレーション等があげられる。また、特徴的な事として玄関及びサッシの枠に収まる程度の値にしたと回答した団体も存在した。その他には、景観計画策定以前からの条例やその他の規制で使用していた割合を引き継いで景観計画でも使用をしている回答した団体も存在した。

一方で、主体が行政と外部の場合では、有識者やコンサルタント、

市民を含めて値を決定しており、全部で 44 件存在をした。議会等で検討し決定を行ったという回答が 22 件であり、その中でも景観審議会を利用している団体が最も多い事が分かる。また、その他に有識者やコンサルタントにアドバイスをもらい値を決定したというところは 16 件存在した。また、主体がその他の場合には以前からの値の引き継ぎや変更等で 3 件、明確な根拠の明示が見られなかった回答が 38 件であった。これらの結果より、使用面積の割合に関しては周辺の状況から値を算出しているのではなく、他の景観計画等から一般的な数値を導き、値を設定しているという事が殆どであるという事が分かった。

7. 結論

現在、景観形成基準に色彩基準を設けているのは 396 団体、基準がないものは 3 団体であった。すべての団体が設定しているベースカラーは、定量型基準のみが 67%、裁量型基準のみが 24%、定量型と裁量型どちらも用いている基準が 8%である。ベースカラーの定量型基準は 5 タイプに分類でき、全体の 68%がマンセル表色系の三属性全てを設定しているタイプである。また、裁量型基準に関しては、3 タイプに分類でき、周辺調和型が 75%で最も多い。アクセントカラーに関しては、色彩基準を使用している地方公共団体の約 60%が規制を設けている。これは 3 タイプに分類でき、使用面積割合で設定しているところが多い。得られた知見は以下の 3 つである。

(3) 定量型基準の数値の設定方法としては、行政のみではなく外部に委託し現地調査を行っている団体が多い。また、他の景観計画を参考にして値を決めている団体も多いが、特徴的なものとして、小諸市の全戸にアンケート調査を行い、それを基に検討をした事例が挙げられる。

(4) 裁量型基準における適否の判断方法は、内規などを設けず行政職員が建築物の色彩を周辺との調和という観点から判断することが多い。この判断方法では具体的な基準がないため場合によって判断に迷ったり、判断が異なる可能性がでてくると考えられるため、改善の余地がある。また、その他に景観審議会等で検討をして判断している場合もある。裁量型の中でも色相と共に自然素材の使用を設定している団体もあり、定量型よりも厳しい基準となっている。

(5) アクセントカラーの使用面積の割合は 20%が一番多く、平均値は 14.9%であった。また、使用面積の割合の根拠としては、ベースカラーの定量型基準の設定方法と同様に、殆どの団体が他の景観計画を参考にしたという結果だったが、その他にも現地調査を行っていたり、シミュレーションを行い比較し、検討を行ったという団体も存在した。また、使用面積の割合を設定していないがアクセントカラーについての規制が明記されている基準に関しては 3 タイプに分類できた。

表 9 アクセントカラーにおける使用面積の割合根拠

主体	根拠			件数	
行政	他の景観計画を参考			78	129
	調査			24	
	東京都を参考			10	
	ガイドラインを参考			4	
	都道府県に準じた基準			3	
	一般的比率を参考			3	
	法・条例	自然公園法を参考	2	4	
		県の条例を参考	2		
	文献	報告書	1	3	
書物		2			
行政+外部	議会	景観審議会	10	22	41
		検討会	4		
		策定委員会	4		
		協議会	2		
		景観づくり委員会	1		
		市民会議	1		
	専門家	有識者	12	16	
		コンサル	3		
		アドバイザー	1		
	その他	調査	1	3	
		ワークショップ	1		
		市民・行政との協働	1		
その他	制限値の引き継ぎ			2	41
	過去の値からの変更			1	
	根拠の明示なし			38	

補注

- 注 1) アクセントカラーとは、一般に狭い範囲に使用される色であり、特に高彩度の原色や蛍光色等の奇抜な色彩を使用することが多い。広い範囲に使用される色彩と色の差を大きくすることでアクセントとなる。
- 注 2) ベースカラーとは一般に外壁の大部分の部分に使われる色彩で、主に無彩色や有彩色の低彩度のものを使用していることが多い。
- 注 3) 筆者が行った調査ではアクセントカラーの割合を設けている自治体は 179 団体でしか確認できなかったが、アンケートでは 180 団体であった。しかし、僅かな誤差であるため影響はない。

参考文献

- 1) 社団法人 日本建築学会：「建築の色彩設計法」，社団法人 日本建築学会，2005.4.25
- 2) 国土交通省のホームページ 景観まちづくりより
http://www.mlit.go.jp/toshi/townscape/index.html
- 3) 斉藤宗房，大井尚行，高橋浩伸：景観計画における地方公共団体の色彩規制の実態，日本建築学会大会講演梗概集（北陸），pp421-422，2010
- 4) 成田イクコ，瀬田史彦：景観計画における色彩規制の実態調査に関する研究，日本色彩学会誌 33(supplement)，pp8-9，2009
- 5) 白石光昭，景観の色彩実態調査および色彩ガイドラインの検討：柏市を対象として，日本建築学会学術講演梗概集．E-1，pp837-838，2009
- 6) 歳實ありさ，山本浩史，熊澤貴之：景観計画における色彩基準の揭示方法と場所設定との関係，日本建築学会学術講演梗概集，pp461-462，2012
- 7) 堂本友里江，岡崎篤行，今村洋一：景観計画における色彩基準の設定状況に関する全国実態：全 338 自治体を対象として，日本建築学会北陸支部研究報告集 第 56 巻，pp279-282，2013

[2015 年 2 月 18 日原稿受理 2015 年 4 月 8 日採用決定]